

文化財 せんだい

No. 139

令和6年(2024年)7月発行
仙台市教育委員会文化財課
仙台市青葉区上杉一丁目5-12
上杉分庁舎 10階
〒980-0011 Tel:022-214-8893
仙台市文化財課 検索

最新調査報告!!

古代文字を発見!?

文化財課に配属されて8年目になる私が紹介するのは、**長町駅東遺跡**とそこで出土した**土器(土師器)**です。

長町駅東遺跡は太白区あすと長町にある遺跡で、飛鳥～奈良時代の陸奥国の役所跡(今でいうと県庁)として有名な郡山遺跡に隣接しています。長町駅東遺跡は、その役所の運営・造営に関わった人々が暮らした集落跡です。発掘調査は令和元・2年度に行われ、調査面積は約10,000㎡になります。主に7世紀から8世紀の竪穴住居跡が200軒以上も見つかり、**私が携わった発掘調査でも最大規模の調査**になりました。

この発掘調査で「名大」という文字が刻まれた土器が出土しました。これは「**名取郡(評)大領**」もしくは「**名取郡(評)大毅**」を省略した文字の可能性が有ります。名取郡は、およそ現在の広瀬川から阿武隈川に挟まれた地域にあった古代の地域名(今でいうと市)です。そこに「大領」(今でいうと市長)もしくは「大毅」(軍隊をまとめる隊長)がいた可能性を示す資料として大変貴重なものです。

この文字はとても小さいため最初は気づきませんでした。土器をじっくり観察しているうちに、文字がふと浮かび上がってきたので、とても驚きました。(担当：三浦)

「名大」と刻まれた土器

右上写真：枠内の拡大写真

右下写真：読みやすいように
特殊処理したもの



この土器が出土した竪穴住居跡

弥生土器のかけらから解き明かす“いにしへの食”

仙台の弥生時代の人々は、土器を使ってどんなものを調理していたの？食材は魚？お肉？植物？今回はそんな疑問を調査した速報になります。

入庁して7年目になる私は、仙台市宮城野区岩切にある**今市東遺跡**の発掘調査を担当しました。ここでは、多くの弥生土器が発見されました。なかでも食べ物の痕跡である炭化物がびっしり付着した土器もみつかったことから、この炭化物を利用した最新の科学分析を実施しました。それは「**土器残存脂質分析**」と呼ばれるものになります。この分析法は、その名の通り、土器の胎土や土器に付着したお焦げなどの物体に残された「**脂質**」を抽出・分析することで、その土器がどのような有機物(食材)を調理・加工するのに用いられたのかを明らかにしようとする方法です。この科学分析は、**日本での実例が少なく、仙台市では初の試み**です。

分析結果は、お米と淡水魚と一緒に調理していたことがわかりました。これは私が想像していた、ほかほかの白米を甕で炊飯していたイメージとは異なり、近隣で採れた食材と一緒に煮込んだ雑炊のようなものを食べていたと考えられる結果となりました。弥生時代の人々が食べていた料理の実態の驚きと、新しい発見に喜びも実感できた、**私の思い出に残る調査**となりました。(担当：須貝)

炭化物が付着した弥生土器
左下写真：枠内の炭化物
拡大写真



弥生時代の今市東遺跡の調理イメージ
(魚とお米と一緒に煮込んだ料理)



文化財課職員が語る！わたしと文化財

中堅職員、妹尾さんと文化財の出会い



「実は身近に眠っている！？遺跡との出会い」

大学1年生の時。私は先輩に連れられ、とある山中のトレッキングコースを登っていました。1時間ほど歩き続けると、これまで登ってきた斜面がおわり、眼前には広い平坦な広場が現れました。「この広場では昔の人が使っていた土器が拾えるよ」と先輩が。目を凝らし探してみると茶色や灰色、緑色のお皿の破片が落ちていました。聞くとこの場所が平安時代に営まれた山林寺院の跡だと知りました。小さな土器のかけらでしたが1,000年前の人と同じものを触っていると、今までは大昔に感じていた平安時代が身近になったような不思議な感覚に包まれ、その後は下を向きひたすら土器を探していました。

これが私と遺跡との出会いでした。

仙台市内には約780箇所の遺跡があります。場所によっては発掘調査ではなくても、田畑を耕している時や、まさかの公園で遊んでいる子どもたちが土器や瓦を見つけたこともあります。

また、現在、住宅街の中に位置する遺跡もあり、もしかしたらみなさんのお家の周りにも遺跡が存在しているかもしれません。遺跡の場所については仙台市の都市計画情報インターネット提供サービスで調べることもできるので、ぜひ調べてみてください。



太白区郡山の畑から出てきた大量の古代瓦
(昭和24年頃伊東信雄氏撮影)

ベテラン調査員、平間さんの思い出の文化財



「49年後に撮影できた全景写真」

文化財課で発掘調査担当39年目です。今回紹介するのは陸奥国分寺南大門跡の発掘調査です。陸奥国分寺南大門跡は、江戸時代に建てられたとされる薬師堂仁王門のほぼ真下にあります。このことは昭和31年に行われた発掘調査の結果はじめて分かったことです。その後南大門跡の発掘調査が行われることはありませんでしたが、昭和53年の宮城県沖地震で薬師堂仁王門が被害を受けて解体修理が必要になったことから、仁王門直下にある南大門跡の発掘調査が必要となり、平成17年になって再び発掘調査を行いました。

この時、昭和31年の調査区を再び掘り直して撮影したのがこの全景写真です。私は普通にこの写真を撮ることができましたが、昭和31年の調査ではこのような全景写真は撮れませんでした。なぜなら、当時の調査は仁王門の床下での調査だったからです。昭和31年には不可能だった全景写真が49年後の平成17年にやっと撮れたということになります。

仁王門礎石の間に昭和31年の調査区が見えます。仁王門の礎石は南大門の礎石を動かして再利用していると考えられています。



解体修理後の薬師堂仁王門

★公式X「文化財課 広報」はこちらから！



文化財に関する
最新情報発信中!!
ぜひ登録を♪

★調査区等の3Dモデルを作成しています♪



仙台城中門北石垣の3Dモデル等を発信中!
ぜひ見てみて下さい♪



この広報誌は雑誌としてリサイクルできます